

# 標本館に対する海外からの地質標本(1)

神戸信和(地質部)

筑波研究学園都市における工業技術院地質調査所の建設計画の一環として 別棟の標本館設立も具体化することとなった。 標本館の建設計画に際し 地質調査所における各研究業務などの国際性 研究交流などを具体的に表現する“シンボル”として 世界各国の地質調査所あるいはこれに相当する機関から それぞれの国の地質を代表する岩石の寄贈をうけて 標本館ロビーの岩石壁張りをを行うことが計画されている。 壁張りの展示レイアウトに際しては 岩石に寄贈先の国名・機関名を刻印の上展示される予定である。

昭和50年末に 各国に対して依頼を行ったが 40数か国の機関から賛意をえ そのうち23か国からは寄贈岩石標本が到着している。 世界各国の地質調査所あるいは相当研究所から寄せられる御好意と御協力 この趣旨に賛同して下さっている方々の御協力にこたえるためにも

世界に互して遜色のない立派な標本館の建設を推進したいと願っている。

以下 これら各国から到着している岩石標本を 地質ニュースの毎号を追って順次 国別に 各国の地理や地質などととも簡単に紹介することとする。

国名: 社会主義人民リビア・アラブ国 (Socialist People's Libyan Arab Jamahiriya)

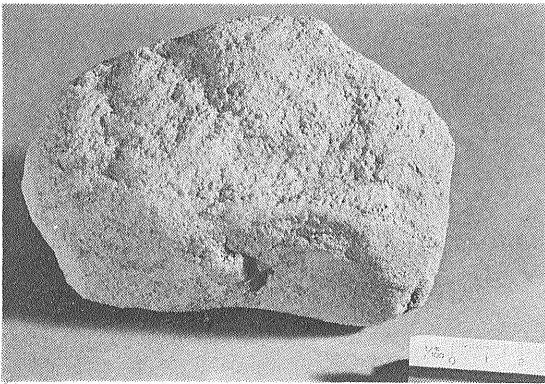
機関名: Department of Geological Researches and Mining, Industrial Research Centre, Ministry of Industry

所在地: P. O. Box 3633, Tripoli, Socialist People's Libyan Arab Jamahiriya

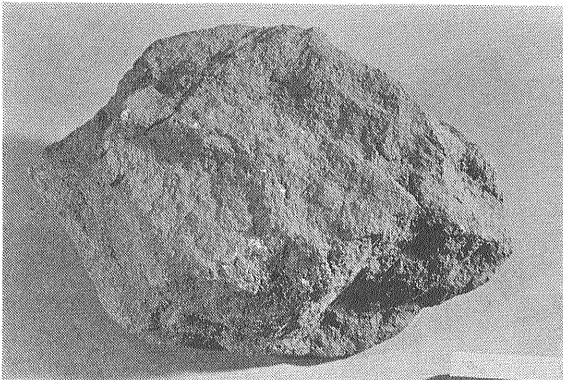
標本名および産地:

- 1) Oolite-Oxidized Iron Ore (鯛状鉄鉱); Wadi-Shatti 産 (第1図)
- 2) Magnetite (磁鉄鉱); Wadi-Shatti 産 (第2図)
- 3) Gypsum (石膏); Hawa Al-Barrag, Benghazi 産 (第3図)

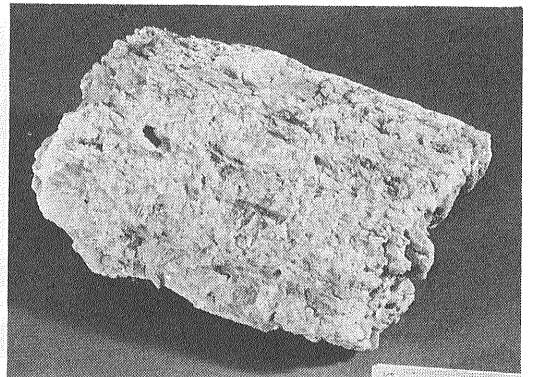
概況: 社会主義人民リビア・アラブ国は 北アフリカ中央部に位置し 北は地中海 (Mediterranean Sea) に面し 東はエジプト・アラブ共和国 (Arab Republic of Egypt), 南東はスーダン民主共和国 (Democratic Republic of the Sudan), 南はチャド共和国 (Republic of Chad), ニジェール共和国 (Republic of Niger), 西はチュニジア共和国 (Republic of Tunisia), アルジェリア民主人民共和国



第1図 Oolite-Oxidized Iron Ore (鯛状鉄鉱) Wadi-Shatti 産



第2図 Magnetite (磁鉄鉱) Wadi-Shatti 産



第3図 Gypsum (石膏) Hawa Al-Barrag, Benghazi 産

(Democratic and Popular Republic of Algeria) とそれぞれ国境を接している国で 総面積は176万平方 km (日本の約4.6倍) で 人口は294万人である。(第4図)

アラビア語を主要言語とし 首都は地中海に面するトリポリ (Tripoli) である。1951年12月に独立し 1955年12月には国連に加盟しており 日本との関係は互いに大使公館を設置している。在留邦人は現在では200名と言われ 貿易面では日本からの輸入は2億7,723万米ドル 日本への輸出は1億1,204万米ドルと言われている。

**鉱産資源**：1951年の独立後 1955年石油法の制定とともに本格的採鉱が開始され 1959年エッソ・リビア社がゼルテン油田を発見 1961年に最初のリビア原油が輸出されて以来大油田の発見が相継ぎ 現在この国においては石油資源は唯一の外貨収入源となっている。

この国における石油以外の鉱物資源としては大鉄鉱床およびセブカ (Sebchas=Salt flats), 石膏 海水などからの塩類および建築石材などである。

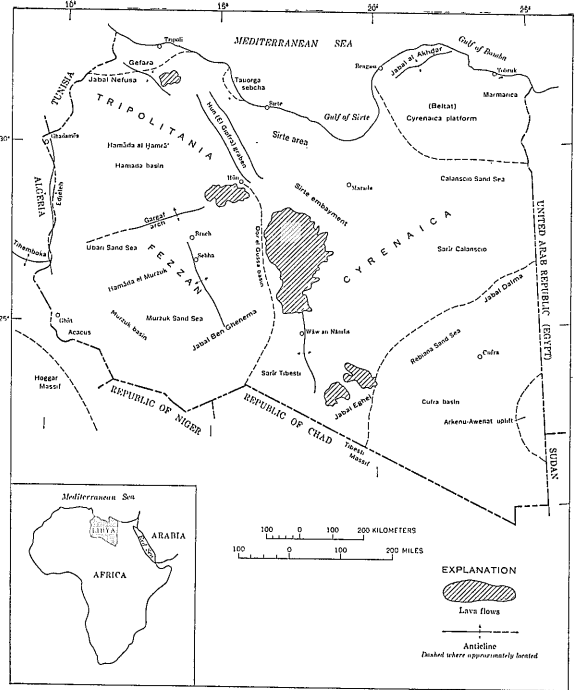
**地質**：この国は全体としてアフリカ盾状地 (African Shield) の北縁における安定地塊の盆地に位置する。なおこの国の北西方にはカンブリア紀から石炭紀前期までの地向斜があったとされるアトラス山脈 (Atlas Mountains) の造山帯が モロッコからチュニジアにいたる長さ約2000km にわたり位置する。

この国の先カンブリア紀火成岩および変成岩は南中央部 南東部および西中央部に分布する。第三紀および第四紀の玄武岩 (Basalts) や響岩 (Phonolites) が国の中央部 南中央部および北西部にかなり広範囲の地域を被覆している。なおカンブリア紀から二疊紀におよぶ古生代や 三疊紀から白亜紀におよぶ中生代の陸成層が北緯28度以南の大部分を占めている。なお 中生代の堆積物はこの国の北西高原部に分布し 大部分は前期第三紀のうすい堆積物により被覆されている。ほかの第三紀の岩石は 中央部 北東部および南中央部を占めている。

なお この国の90%は砂漠であり 有名なサハラ砂漠に属す。したがって国の3分の1は砂丘や砂礫に被覆されている。この国 社会主義人民リビア・アラブ国は地理的には Tripolitania, Fezzan, Cyrenaica の3地域に分かたれている。

なお 寄贈標本の

- 1) Oolite-Oxidized Iron Ore (餅状鉄鉱)
- 2) Magnetite (磁鉄鉱) は明確な産出位置は不明であるが Wadi-Shatti 産であることから Fezzan 地方の有名な Shatti Valley Area の Wadi Shatti 鉄鉱床に伴うものである。この鉄鉱床は 下部石炭系下部層であるトゥル



第4図 Index map of Libya (U. S. G. S. Prof. Pap. 660 による)

- ネー統 (Tournaisian) に属することが判明している。
- 3) Gypsum (石膏) は明確な産出位置は不明であるが Hawa Al-Barrag, Benghazi 産であることから 中新統上部層である Ar Rajmah Formation-Wadi al Qattarah Member に属する石膏である。

参 考 文 献

- 1) R. FURON (1963): Geology of Africa, Oliver & Boyd, Edinburgh and London
- 2) NICOLAS de KUN (1965): The Mineral Resources of Africa, Elsevier Publishing Company, Amsterdam London New York
- 3) Commission de la Carte Géologique du Monde / Unesco (1968): Carte Tectonique de l'Afrique 1/15000000
- 4) G.H. GOUDARZI and R. TSCHOPFKE (1968): A Geologic Report on the Iron Deposit of the Shatti Valley Area of Fezzan, Kingdom of Libya; Geological Section Bulletin No. 7, Geological Survey, Ministry of Industry, Kingdom of Libya
- 5) 石油鉱業連盟・天然ガス鉱業会編(1969): 世界の石油と天然ガス 天然ガス鉱業会発行
- 6) G.H. GOUDARZI (1970): Geology and Mineral Resources of Libya-Reconnaissance, U. S. Geological Survey Professional Paper 660
- 7) V. Ye. KHAIN (1971): Regional Geo-tectonics in Russian, Moskwa
- 8) LUBOMIR KLEN (1974): Geological map of Libya 1:250,000 Sheet Benghazi with explanatory booklet, Industrial Research Centre, Libyan Arab Republic